

背景・目的

- 漁業者の減少により、操業による漁獲情報も少なくなり、経験と勘に頼った効率の悪い操業となっている。
- 水産流通は大規模消費地と離れているため、流通業者は必要な情報をより早く得ることが必要。

【現状】



【将来像】



研究内容・目標

- 漁船での海況データ観測と解析体制を構築する。
- 漁業情報のデジタル化による漁場予測技術を確立し操業を効率化する。
- 水産情報サイト運用と機能の充実により、流通の活性化をはかる。

秋田県水産情報サイト

07/29 08:43 現在

岩館	📍	
八森	📍	
北浦	📍	
鹿	📍	
船川橋	📍	
船川	📍	
平沢	📍	
金浦	📍	
象潟	📍	

水産情報サイト

研究成果

- 海況データ観測と解析体制を構築
 - ・民間船と県の千秋丸を併せて18隻での観測体制と九州大学との連携でデータの自動解析体制を構築した。
 - ・解析結果は、水深ごとの水温、塩分、潮流を要素とする海況予測アプリ（予潮）で表現し、関係者が閲覧できるようにした。
- 漁場予測技術による操業の効率化
 - ・漁船の漁獲データから自動的に漁場マップを作成できるようにした。
- 水産情報サイトによる流通の活性化
 - ・出港状況がわかる漁船の拡充、千秋丸の調査結果の即時発信、岩館漁港・戸賀湾・金浦漁港に設置したICTブイの観測データの発信を行うことで、参考となるデータを拡充した。



技術普及に向けた取組

- 海況予測は、講演会などを通じて活用事例等を周知し、普及していく。
- 漁場は過去のデータを可視化できるようになったことから、海況予測モデルと連携して予測につなげるべく研究を継続する。
- 流通の活性化をさらに進めるためには、情報を必要とする仲買人と漁業者との連携を図っていく。